



今月のみさとし/喜びというものは、受くる身よりも送る感謝の身に多い。(ご聖訓第八巻137頁)

第175回秋季大祭本祭式典

輝ける令和の時代を切り開き、心を合わせ再出発!



秋晴れに恵まれた10月10日、第175回秋季大祭本祭式典が行われた。朝礼後、浄災場にて点火式が、午前9時30分より太神社殿前にて奉告祭が行われ、午前10時45分からは、万部御法楽が五智如来堂内にて厳粛に執り行われ、遠方からの会員らも参列した。

午前11時30分からの本祭式典は、国歌斉唱、大祭の歌斉唱、拝礼行事、尊者のみ声拝聴と進んだ。続く萬霊魂祭塔の

儀ではまず、岡野英夫理事長が生花を塔前に捧げた後、参加者全員による真心からの般若心経が万物万霊に捧げられた。

岡野理事長は式辞にて長老さまの最後のお言葉を引用され「解脱会員はどこまでも修行者であることを忘れずに、精進しなければいけない。皆、自分ではできていると思っているようだが、十分に反省する必要がある、いつも清らかな心で過ごせるように努め、馬鹿になって修行し

てほしい。令和の時代を私たちの手で切り開いていくというお誓いをし、心を合わせて再出発をさせていただきます」と会員の更なる努力を促した。

その後、西村晴雄常任理事発声で新帝陛下御即位を祝う万歳三唱が行われた。

第2部直会は、渡辺孝彦顧問による乾杯で始まり、和やかなひと時を過ごした。

尚、12、13日に予定されていた支部認証式、大祭式典は、超大型の台風19号が関東直撃との予報があり、会員の安全を考え、急遽中止となった。

支部認証式は、15日正午に各直轄道場にて執り行われ、今回は名誉支部長2名、支部継承支部長6名が辞令交付を受けた。

台風19号により被災された方々へ、心からお見舞い申し上げます。

認証された名誉支部長・新支部長

名誉支部長



東京1・多摩
三室 喜義



東京3・中野
稲子 知義

支部継承支部長



東京1・多摩
三室 和子



東京3・中野
稲子 喜之



東京6・小石川
松谷 芳枝



千葉・千葉八幡
田山 孝育



神奈川・小田原酒匂
鈴木 陽子



滋賀・滋賀蛭谷
川嶋 正雄

新支部長研修・フォローアップ研修

新時代の支部へ

新支部長研修・フォローアップ研修が9月28日、29日に御霊地・解脱研修センターにて行われ、新支部長6名と就任5年目の支部長3名が参加した。

1日目、開講挨拶に立った宮坂保徳教務局長からは、時代に即応した明るい支部の中で会員の見本となるよう教えを実践し、金剛さまのみ心にそった支部づくりに向けて、学ぶべき要点など当研修の心構えが話された。続いて、「支部長の役

目」と題して、岡野英夫理事長より、真心の祈りの中でお役目にお使いいただく心づくりや、会員と学び合い、御霊地に通い正しい学びを積み重ねる大切さなどについて講義があった(写真右)。

次に、「支部長の心得」をテーマに高崎中央支部の村上美津枝支部長が、支部長家族が心をつにして会員を迎える嬉しさや、会員の苦難を共に乗り越えた喜びを述べ、支部を預かる尊さに一同、感銘を受けた。

夕食の懇親会では、新支部長が今後の抱負を発表し、先輩支部長らと励まし合う温かい交流の時間となった。



その他、2日間の講義では、諸札の心得、秘義三法の尊さ、支部の実務についてなど、支部長として必要な基礎的内容を学び、最後に、支部運営上の悩みなどを宮坂教務局長ら本部指導員と質疑応答を交わし、不安の解消が図られた。新支部長たちは新時代に合わせた支部づくりの決意を新たにしました。

仲介者養成コース

寸暇を惜しんで学ぶ熱心さ

9月21日～22日、仲介者養成コースが御霊地・解脱研修センターにて開催され、51名が参加した。

午前10時より開講。初めに長年修法部で活躍されてきた武前桂三相談役が講話に立ち、「人生の目的は、足りないものを手に入れることでなく、すでに頂いている『今』自体を有り難いと思えること」と述べ、伝統的に誤ってきた精神をみ教えを通じて日本精神に立ち返るといふ御修業の要点を伝えた。続いて福澤文雄布教本部長より「御五法修業の目的と心得」、

宮崎順史修法部員より「事前・事後の在り方」、大賀光夫修法部長より「初期の靈動」、岩田始修法部次長より「水死無縁」の各項目を修法シートに基づき学んだ。

9班に分かれての実修では、基本の作法の確認から始める班や、仲介者として修業者の話に耳を傾ける傾聴の訓練を行う班など、班担当により参加者の経験値に合わせた指導が展開された。また実修以外も休憩や食事時を利用し、日頃の仲介での悩みを相談する姿も見受けられた。

班実修は翌22日の午前中も行われ、



午後からは名古屋第1教区の加藤眞一修法担当員と京都教区の田中英次修法担当員が、各教区の修法の現状や課題、今後の目標などを発表。最後に三浦純教育部長の講話に学び、午後3時閉会。研修を終えた参加者からは、支部における実践の決意や、再び研修に参加し学びを深めたいなど、熱意溢れる感想が聞かれた。

第165回海老名萬霊魂祭塔秋季大祭

令和の時代を迎えて伝統の継承

9月23日、台風17号の影響を受けた強風の中、神奈川県海老名市の海老名萬霊魂祭塔前において、第165回海老名萬霊魂祭塔秋季大祭が解脱会本部主催、神奈川教区主管のもと開催され、本部より稲子知義指導員が出講、地元教区はじめ縁ある東京の会員、約130名が参列した。

大祭は、女子青年による献華、女性部

による天茶献供、福井恒明神奈川教区長の諷誦文奏上、代表者による焼香の後、参加者全員が般若心経三巻を念唱する中、真心からの天茶供養を厳修した。

講話では稲子指導員が「令和の時代を迎えて伝統の継承と新しい展開をめざすべく、金剛さまからご指導を受けて、斎藤重保氏が命がけて建立された萬霊魂祭



塔に対し、神奈川の会員は誇りをもって奉仕し、次世代への継承に精進していたきたい」と呼びかけた。その後、稲子指導員の発声で声高らかに万歳を三唱し、お互いの志気を高め合った。

東京第6・1教区・三聖地巡拝

天候に恵まれる中、世界平和を祈る



8月23日～25日、東京第6教区と第1教区合同の三聖地巡拝が行われた。これは毎年、東京第6教区が独自で行っている夏の三聖地巡拝に1教区が加わり、行われた2度目の巡拝となる。

朝発と夜発の二つのコースに分かれたバスツアーで、朝発の1日目は春の巡拝同様、伊勢の外宮を参拝して鳥羽に宿泊。夜発は夜行で早朝に外宮に参拝し、内宮で合流し結団式を行った。檀原神宮では内拝殿の回廊での参拝を許され、泉涌寺では上村貞郎長老猥下のご挨拶を頂いた。さらに泉涌寺のご配慮により海会堂や開山堂での参拝など特別な行事を行うことができた。檀原神宮と泉涌寺では両教区の鼓笛隊パレードが行われた。

行程の前半は雨模様となったが、参拝中は降られることなく、返って涼しく快適な巡拝となり、「参加して良かった」など参加者からの声が聞かれた。

神戸教区・青少年三聖地巡拝錬成

親子孫で三聖地巡拝に参加しよう!



8月24日～25日、神戸教区は第6回青少年三聖地巡拝錬成を開催。今年は「親子孫で参加しよう」をコンセプトに合計68名が参加し、バス2台をチャーターして行われた。

2日間の天候は曇り空だったが過ごしやすく、参加者全員が無事に巡拝を完遂することができた。

初めて参加した子供たちは、最初は緊張気味だったが、おかげ横丁の散策や宿泊したホテルでの楽しい懇親会、花火を通じた交流で打ち解け、夏休み最後の楽しい思い出となった。

この2日間を通して、それぞれ感じたことをこれからの生活に活かしていくことを約束し、家路についた。

今回、無事に2日間を終えて自信を得たスタッフからは、今後も「支部の垣根を越えた仲間づくり」を目標に、努力精進していくことを誓い合った。

群馬教区・第54回 孀恋萬靈魂祭塔供養祭

供養祭を後世に伝えてゆく使命を

群馬教区は9月14日、孀恋村鎌原観音堂前において第54回孀恋萬靈魂祭塔供養祭を開催。本部出講の倉田正治指導員をはじめ熊川栄孀恋村々長、横川崇幸鎌原区長ら地区役員、塔建立に尽力した子孫らが列席し、146名が参加した。

開式に先立ち、恒例となった地元「和讃会」により、日本最古の「和讃」と「御詠歌」の朗詠が厳かに行われた。

続く式典では、拝礼行事、表白文奏上、天茶供養、焼香と進み、倉田指導員は、「薄れゆく災害の傷を癒やす供養祭を続けて



いくために後世に伝えていくのが我々の使命」と挨拶。横川鎌原区長より毎年の供養祭への謝辞を頂き終了した。

和歌山教区・女性大会

自己認識し、改革に努める



和歌山教区では8月26日、本部より中西好子指導員が出講し和歌山県J Aビルにて女性大会を開催、約100名が参加した。

大会では、和歌山北島支部の武田さんが体験を発表し、「お導きした友人との歩みの中で、わが家の伝統や私の心遣いを気づかせてもらった。今後も友人と共に精進したい」と述べた。

続いて3分間体操で体をほぐした後、門多悠志青年部長が青年部活動の報告を行い、さらなる協力を呼びかけた。

講話に立った中西指導員は、「文字を読み覚えるだけの学びでは、役に立たない。心で受け取り真実を学ぶこと、生きる工夫を学ぶこと。そして自己を認識し、日々の中で改革に努めることが大切である。解脱会員としての自覚と責任を持って、解脱の教えを楽しく学びましょう」と訴えた。

続いて“みちづれ”を全員で合唱し絆を強めた後、津村圭子副担任部長が「自己を認識し、真実に生き、明るい未来と社会を残すために精進しましょう」と、大会を締めくくった。

関西圏域・女性の集い

本気で行こう100年へ

関西圏域では9月29日、「本気で行こう、100年へ」をスローガンに掲げ、女性支部長、支部長夫人を参加対象とした女性の集いを開催した。

秋晴れの中、まず金剛宝塔前にて金剛さまへ御挨拶を申し上げた後、御寺泉涌寺のご配慮により、御陵・霊明殿・海会堂などを参拝させていただいた。さらに妙応殿にて、上村貞郎長老猊下より講話を頂く栄を賜った。

続いて関西道場に移動し、京都教区会員手作りのデザート盛り合わせに舌鼓を打ち、楽しく昼休みを過ごした。

講話では本部出講の関僚子指導員より、支部を預かる大変さに悩みつつも役目の有り難さに気づいた体験などが語られた。

続くグループディスカッションでは、切実な悩みや問題点が吐露される中、自身の指導力の向上や家族学びへの推進など本気で立教100年に向けて取り組んでいくことを誓った。



名古屋第1教区・女性大会

女性だけの企画運営で盛会に



名古屋第1教区では9月29日、中部道場にて女性大会を開催し、本部より木崎成博指導員が出講した。大会は今回初めて、女性スタッフの能力と自覚の向上を図ることを

目的に、女性だけで企画・運営を行った。お誘いには、各支部班長が目標人数を設定してお誘い活動を展開、みごと104名の参加という成功をみた。また女性部役員が前に立ち寸劇を披露しながら参加者にテーマを分かりやすく提示するロールプレイングを行い、続くディスカッションを盛り上げるための土台となった。そして木崎指導員から「金剛さまの目指されたものと女性の立場で活動できること」をテーマとした講話により、家庭における夫婦の在り方などについて学んだ。参加者はそれぞれ日々取り組む課題を明確にした。

東北第1教区北区・みんなの集い

初の開催に幅広い世代集う

東北第1教区北区では8月25日、青森藤崎支部にて、会員同士が楽しく話し合える場づくりを目的に、初の「みんなの集い」を開催。下は2歳から上は



83歳といった幅広い年齢層の参加者21名が集まった。

当日、支部に集合した参加者は、御神前で御挨拶をした後、全員でギョウザ作りを行った。準備は熟年層、子供たちの面倒は青年層が受け持ち、子供たちも楽しく手伝いながら作業を行い、作ったおにぎりと共に楽しく食べた。

その後、金魚すくいや折り紙、シャボン玉で遊び、おやつを食べて終了となった。初開催となった今回、行事に初参加の親子や、初対面の子供同士が仲良くする姿が見られ、若い世代のお導きの足掛かりとなる行事となった。

東京第4教区・健康指導研修会

「笑顔」をキーワードに



東京第4教区では9月12日、大岡山支部にて健康指導研修会を開催。本部出講の堀川剛史指導員と平本佐知子健康指導委員を講師に迎え、「健康な体は笑顔から～いざという時の対処法を学ぶ～」を

テーマに、36名が参加し学んだ。

堀川指導員の講義では、体の痛みを和らげる方法や笑いのある家庭を築いていくことの大切さなど、実技指導と共に解説があった。その後、平本健康指導委員より、むくみや発熱の際に、里芋、ショウガ、彼岸花等を使用した治療法の指導があった。最後に個人指導が行われ、終始笑顔が溢れる和やかで楽しい研修となった。

中国第2教区・仲介者研修

仲介者としての向上に励む

9月8日、中国第2教区では、広島千年支部にて教区仲介者研修を開催し、27名が参加した。

午前10時に開会し、拝礼行事、開会挨拶に続き、本部出講の岩田始指導員より「御五法修業の目的と仲介者の心得」について講話があり、霊動の見方や受け取り方、事後の話し合いについての解説があった。昼食をはさみ午前と午後に行われた実修の時間では、岩田指導員やトレーナーからの指導のもと、それぞれ仲介者としての向上を目指し、熱心に学んだ。

最後に質疑応答、閉会挨拶、終礼行事をもって午後3時20分、終了となった。



埼玉教区・子ども会

釘を打つ音や楽し気な声が響く



埼玉教区では8月25日、御霊地にて、第7回夏休み親子孫工作教室を開催。当行事は北本市民の方々にも毎年好評を得ており、総勢約250名が参加した。

これは、埼玉北本宿支部会員である斉藤材木店の協力を得て行う地域住民と解脱会員との交流を目的に、楽しく木工作品を作ろうというイベントで、今回は、職人のサポートのもと、子供用いすや貯金箱を製作。釘を打つ音や世代を超えた楽しげな声がお山内に響いた。午後は教区子ども会担当者を中心に、親子で楽しめるゲームで盛り上がった。

北海道々南教区・子ども大会

景色や豊かな自然を感じながら

道南教区では、9月21日、子ども大会を行い、小樽市にある小樽海岸自然探勝路において、山登りを楽しんだ。

まず、札幌道場にて拝礼行事、お浄めの後、バスで現地に向かった。登山は赤岩山の麓から登山ガイドの資格をもつ幹事さんの引率の元、天茶の葉を撒きながら安全と感謝を祈り、参加者一同無事に下山できた。

日頃、自然と触れあう機会が少ない中、2時間近くの山登りにより、普段見れない景色や豊かな自然を感じながら歩くことができ、参加者全員が達成感と自信を得た一日となった。



東北第2教区・福島地区子ども会

水族館の中で交流深める



東北第2教区・福島地区では、子供たちの育成と交流を目的に、8月18日に環境水族館アクアマリンふくしまにて子ども会が行われ、39名が参加した。

当日は、12時45分に現地に集合。開会の言葉、注意事項の説明に続いて、渡邊良二二本松鈴石支部長が挨拶。その後、水族館を見学し、その中の海辺の自然を再現し、裸足で遊べる「蛇の目ビーチ(人工のビーチ)」で遊び、子供たちが大いに喜んだ。今回、初参加の親子も多く、楽しく交流を深め充実した一日となった。

スポットライト

福島県足もみ隊に感謝状!

東北第2教区福島地区では、足もみ隊活動の功績が称えられ、2019年8月3日に福島県社会福祉協議会より感謝状が贈られた。

この活動は、2011年に東日本大震災が起きた際に、本部の健康指導係が中心となって、南相馬市で被災者の心を癒すことを目的に足もみ活動を始めたことがきっかけ。

その後は、浪江町、二本松市の社会福祉協議会を通して足もみ活動が実施できる施設を紹介していただき、年間で多い時には26カ所を周り、多くの人を笑顔にしてきた。代表である二本松鈴石支部の渡辺幸一さんは、「足もみをさらに多くの方に経験していただいで喜びを分かち合える仲間を増やしたい」と今後の抱負を語った。

